

バーが居ます。そのメンバーがお客様企業で体を張って仕事をしています。たとえばいきなり皿洗いや洗車など現場の苦労や楽しさを実感することになります。その「やる気」のあるメンバーと一緒に「チャンス」を作り、目一杯チャレンジする。そして必ず社会に貢献できる企業を創造する。これが我々の仕事です。その結果自分の死後、自分がいたことに少しでも感謝をしてくれる人がいれば本当に幸せだと思います。

インタビューを終えて

ものすごくエネルギーあふれ、温かく、包容力がある方という印象を受けました。言葉ひとつひとつに強い力を感じました。大きな仕事をしてきているのに、どんな人とも真っすぐ目を見て、しっかり受け止めてくれているという人柄の魅力を感じました。

(インタビュー：岡本 あゆ子)

第一弾！新任教授紹介①

新任教授の質問！……江口 圭一 先生（特任准教授）

Q1

専門（研究）分野は何ですか。

産業・組織心理学、組織行動論、職業適応論などを主な研究領域としています。具体的には、職業生活における労働者の価値観と行動の関係、労働者のメンタルヘルス、職業生活への適応問題などについての実証研究を行っています。

Q2

今までの主なキャリア（前職等）を教えてください。

もともとは、高専で電気工学を学び、技術職として医療器具メーカーに就職しました。サラリーマンとして10年ほど過ごす中で、ストレスを抱えつつも働き続ける同僚や、ささいなことで会社を辞めてしまう同僚を目にしてきました。もちろん、自分自身もいろいろ悩むこともありました。そのような経験から、職場における「ヒト」の問題に興味をもちました。その後、勉強し直すために退職し、教育学、心理学、人間科学、マネジメントなどを学んできました。

Q3

趣味は何ですか。

プロレス観戦（インディ中心）、音楽鑑賞（主にレゲエやスカなど）、パソコンいじり、（10年ほどクラブをさわっていないため腕もクラブも錆び付いている）ゴルフなどです。

Q4

どのような授業やゼミを行ないたいと思われませんか。

社会での経験が豊富な方が多いと思いますので、現実の社会がどのようにして動き、どのような問題を抱えているかは十分に理解されていると思います。ですから、みなさんが経験してきた現実と、その背景にある学術的な理論とを結びつけるような講義にしたいと思います。ゼミでも、みなさんが抱えている問題と理論を結びつけ、その解決の糸口になるような論文を書くための支援をしていきたいと思います。

Q5

今までの寄稿した論文や執筆した本を教えてください。

ここ2年ほどの研究成果として、

「労働価値観測定尺度（短縮版）の開発」

（実験社会心理学研究）

「労働価値観測定尺度の開発」

（産業・組織心理学研究）

「職業生活において文化的自己観と労働価値観が組織市民行動に及ぼす影響：若年労働者を対象とした研究」

（産業・組織心理学研究）

「労働価値観測定尺度の項目特性に関する研究：項目反応理論を用いて」

（広島大学マネジメント研究）

などがあります。

Q6

RBSの生徒に期待することは何ですか。

大学院で研究生生活を送る上で、みなさん自身が経験してきたことを大切にしてください。それが、社会人ならではの強みだと思います。ですが、その経験に捕らわれすぎること禁物です。それに捕らわれすぎると、現状から一步も動けないまま2年間が過ぎてしまいます。柔らかい思考を心がけてください。



Q7

現在、興味がある研究分野があれば教えてください。

職場における「ヒト」に関すること全般に興味があります。どうすれば多くの人が幸せな職業生活を送れるか、そしてそれをどうやって組織の成果に結びつけていくかを考えています。

Q8

その他、メッセージがあればよろしくお願いたします。

経営学は社会科学です。Q6にも書きましたが、主観的な勤や経験に捕らわれすぎることなく、客観的、論理的な思考を心がけ、科学的な研究ができるように頑張ってください。

(インタビュー、編集担当：小俣 雅邦、村瀬 由佳)

ご協力ありがとうございました。

※次号で第二弾を予定しております。